

花き類における各種薬剤の アザミウマ類に対する殺虫効果

福島県農業総合センター 生産環境部

1 部門名

花き - その他 - 病害虫防除

2 担当者

三田村敏正・荒川昭弘

3 要旨

侵入害虫であるミカンキイロアザミウマを始め、花き類を加害するアザミウマ類は、殺虫剤に対する抵抗性獲得が問題となっている。そこで、2007年～2009年にかけて、特に防除に苦慮している現地農家からアザミウマ類を採集し、各種薬剤に対する殺虫効果の実態を調査した。

- (1) キクに寄生していたミカンキイロアザミウマでは、スピノエース顆粒水和剤の死虫率が90%以上と高く、オルトラン水和剤、モスピラン水溶剤、アクタラ顆粒水溶剤、ハチハチ乳剤ではいずれも15%以下と低かった。
- (2) トルコギキョウに寄生していたネギアザミウマでは、オルトラン水和剤の死虫率が100%であったが、マブリック水和剤、アクタラ顆粒水溶剤、コテツフロアブルは50%以下と低い傾向であった。
- (3) カラーに寄生していたヒラズハナアザミウマの死虫率は、オルトラン水和剤が72.6%、ハチハチフロアブルが10.8%であった。
- (4) ネオニコチノイド系殺虫剤による殺虫効果が低い傾向であった。
- (5) 殺虫剤を使用する場合は、種類や寄生している植物、個体群によって殺虫効果が異なることがあるので、薬液が十分量付着するように散布するとともに、その効果を自らが判断する必要がある。今回の調査において、多発生ほ場では薬剤選択にも苦慮している実態が明らかとなり、侵入防止対策など物理的防除資材を組み合わせた総合的な管理が不可欠である。

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成19～21年度農業総合センター試験成績概要(2007～2009)